

問1 弥生時代の集落において、収穫した稲を保存するために用いられた建築物の構造と、その目的について説明したものととして最も適切なものはどれですか。（2022年 群馬県公立入試 類似）

- |  |  |  |   |
|--|--|--|---|
| 1. 床を地面よりも高い位置に作り、風通しを良くして湿気を防ぐとともに、ネズミなどの害を防いで稲を貯蔵した。 | 2. 地面を円形や方形に掘り下げた床とし、防寒性を高めることで家族が共同で生活するための居住空間とした。 | 3. 建物の周囲に石垣を高く積み上げ、収穫した作物を敵対する他の集落による略奪から守るための防衛施設とした。 | 4. 建物の周りに深い堀を巡らせ、収穫物が雨水によって浸水したり流失したりするのを防ぐ排水機能を重視した。 |
|--|--|--|---|

問2 弥生時代、大陸から金属器が伝わったことで人々の生活は大きく変化しましたが、当時の「青銅器」の主な用途と代表的な道具の組み合わせとして最も適切なものはどれですか。（2018年 大阪公立入試 類似）

- |                                     |                                     |                                       |                                       |
|-------------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 祭祀や儀式のための道具として用いられ、銅鐸や銅鏡などが作られた。 | 2. 鋭利な刃物として戦闘に用いられ、剣や矛などの武器の主流となった。 | 3. 頑丈な農具として開墾に用いられ、すきや鍬（くわ）の先などが作られた。 | 4. 食料を保存・調理するための容器として用いられ、須恵器などが作られた。 |
|-------------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|

問3 1世紀半ば、奴国の王が中国の王朝（漢）に使者を送り、金印を授けられたという出来事について、その当時の国際関係のあり方や目的を説明したものととして最も適切なものはどれですか。（2026年 山口公立入試 類似）

- |   |  |   |   |
|---|--|---|---|
| 1. 中国の皇帝に朝貢してその支配下に入ることで、自身の王としての地位を認めさせ、国内での権威を高めようとした | 2. 対等な立場での外交を求める国書を送り、大陸の進んだ律令制度を日本へ速やかに導入することを目的とした | 3. 朝鮮半島での軍事的な優位を確保するため、中国の王朝と軍事同盟を結び、援軍を派遣してもらう約束を取り付けた | 4. 仏教を日本に広めるため、優れた経典や仏像を日本へ持ち帰る許可を皇帝に求める使節を派遣した |
|---|--|---|---|

問4 弥生時代に作られた吉野ヶ里遺跡のような「環濠集落」が、縄文時代の集落にはほとんど見られない防御的な構造（深い堀や土塁など）を持つようになった背景として、最も適切な理由はどれか。（2026年 大阪公立入試 類似）

- |  |  |   |  |
|--|--|---|--|
| 1. 大陸から伝わった稲作によって食料の備蓄が可能になり、土地や水を巡る集落間の争いが始まったため。 | 2. 大規模な建築技術が導入されたことで、権力者の権威を象徴するための装飾として堀を作ることが流行したため。 | 3. 狩猟採集が中心の社会において、森から降りてくる野生動物の侵入を物理的に遮断する必要があったため。 | 4. 巨大な前方後円墳を造営するための土を確保する目的で、居住地の周囲を深く掘り下げる必要があったため。 |
|--|--|---|--|

問5 弥生時代には大陸から青銅器と鉄器の技術が伝わりました。鉄が主に武器や工具として利用されたのに対し、青銅器である銅鐸は、時代が進むにつれて大型化していきました。このような変化を遂げた銅鐸は、当時どのような目的で使われていたと考えられていますか。（2021年 大阪公立入試 類似）

- |                        |                      |                    |                         |
|------------------------|----------------------|--------------------|-------------------------|
| 1. 稲を効率よく刈り取るための実用的な工具 | 2. 集落を外敵から守るための鋭利な武器 | 3. 豊作などを願うための祭祀の道具 | 4. 大陸との交易において価値の基準となる貨幣 |
|------------------------|----------------------|--------------------|-------------------------|

問6 紀元前後の日本（倭）が100余りの小国に分かれていた時代、現在の福岡県付近にあった「奴国」の王が使者を派遣し、皇帝から「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けられたとされる中国の王朝を選びなさい。（2016年 大阪公立入試 類似）

- |      |      |      |      |
|------|------|------|------|
| 1. 漢 | 2. 唐 | 3. 宋 | 4. 元 |
|------|------|------|------|

問7 弥生時代の農具である「石包丁」の形状と、その使用方法を説明したものととして正しいものはどれか。（2016年 奈良公立入試 類似）

- |   |  |                                      |                               |
|---|--|--------------------------------------|-------------------------------|
| 1. 半月形や楕円形の石の側面に穴が開いており、そこに紐を通して指をかけて使用する | 2. 長い木の柄の先に鋭利な石を装着し、地面に近い茎の部分から一気に刈り取る | 3. 平らな石の表面に多くの溝が刻まれており、収穫した稲を叩いて脱穀する | 4. 重い石を棒の先に固定し、土を深く掘り起こして田を耕す |
|---|--|--------------------------------------|-------------------------------|

問8 弥生時代の遺跡からは、稲作に関連する様々な道具や施設が発見されています。収穫した稲の穂首を摘み取るために用いられた石器と、穀物を湿気やネズミなどの害獣から守るために床を高くした貯蔵用の施設の組み合わせとして、正しいものはどれですか。（2017年 岡山公立入試 類似）

- |             |               |             |              |
|-------------|---------------|-------------|--------------|
| 1. 石包丁と高床倉庫 | 2. 銅剣・銅矛と高床倉庫 | 3. 石包丁と竪穴住居 | 4. 和同開珎と高床倉庫 |
|-------------|---------------|-------------|--------------|

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 床を地面よりも高い位置に作り、風通しを良くして湿気を防ぐとともに、ネズミなどの害を防いで稲を貯蔵した。	弥生時代に本格的な稲作が始まると、秋に収穫した米を翌年の春まで保存するなどの長期間の貯蔵が必要になりました。高床倉庫は、床を高くすることで地面からの湿気が伝わるのを防ぎ、米が腐るのを抑える工夫がなされています。また、柱の上の部分には「ねずみ返し」と呼ばれる板が取り付けられ、食料を食い荒らすネズミの侵入を防いでいました。選択肢にある地面を掘り下げる建築物は竪穴住居であり、主に居住用として使われていたものです。
問2	<b>答え 1</b> 祭祀や儀式のための道具として用いられ、銅鐸や銅鏡などが作られた。	弥生時代には鉄器と青銅器がほぼ同時に伝わりましたが、それぞれの金属の特性に応じて使い分けがなされました。鉄器は硬くて鋭いため、武器や農具などの実用品として普及しました。一方、青銅器は美しい光沢を持つことから、神をまつ際の祭具や、村の権威を示すための道具として使われました。
問3	<b>答え 1</b> 中国の皇帝に朝貢してその支配下に入ること、自身の王としての地位を認めさせ、国内での権威を高めようとした	当時の日本（倭）は多くの小国に分かれて争っており、各国の王は、強大な力を持つ中国の皇帝に貢物を捧げる「朝貢」を行いました。それに対して皇帝がその土地の支配権を認める（冊封）ことで、王は自国内や周辺の国々に対して自分の正統性や優位性を誇示しようとしていました。1世紀の奴国の王による外交も、こうした背景によるものです。
問4	<b>答え 1</b> 大陸から伝わった稲作によって食料の備蓄が可能になり、土地や水を巡る集落間の争いが始まったため。	弥生時代に稲作が普及すると、余剰生産物の蓄えや、稲作に欠かせない土地・水を巡って集落同士の対立が生じるようになりました。このような「戦争」の発生に対応するため、集落の周囲に深い堀（環濠）を掘り、外敵の侵入を防ぐ防衛的な機能を持つ集落が発達しました。
問5	<b>答え 3</b> 豊作などを願うための祭祀の道具	弥生時代に伝わった青銅器には、銅鐸のほかにも銅剣や銅矛などがありますが、これらは実戦で使う武器ではなく、主に祭祀の道具（祭祀具）として用いられました。当初は内部に「舌（ぜつ）」を吊るして音を鳴らす鐘として使われていましたが、次第に大型化し、地中に埋めたり飾ったりして、豊作を祈る象徴的な役割へと変化していきました。
問6	<b>答え 1</b> 漢	紀元前1世紀ごろ、倭（日本）は100余りの国に分かれていました。1世紀半ば（紀元57年）には、その中の一つである奴国の王が中国の王朝である漢（後漢）に使者を送り、皇帝（光武帝）から金印を授かりました。この事実は中国の歴史書である『後漢書』東夷伝に記録されています。
問7	<b>答え 1</b> 半月形や楕円形の石の側面に穴が開いており、そこに紐を通して指をかけて使用する	石包丁には指を通すための小さな穴が開いているのが特徴です。この穴に紐を通し、手に固定することで、稲の穂を効率よく摘み取ることができました。こうした道具の工夫から、当時の人々が手作業で丁寧に収穫を行っていた様子がうかがえます。
問8	<b>答え 1</b> 石包丁と高床倉庫	弥生時代に始まった稲作では、磨製石器の一種である石包丁を用いて、稲の穂の部分だけを摘み取る「穂首刈り」が行われていました。また、収穫した穀物を安全に保管するため、風通しを良くして湿気を防ぎ、柱に「ネズミ返し」という板を取り付けてネズミの侵入を防ぐ工夫がなされた高床倉庫が作られました。